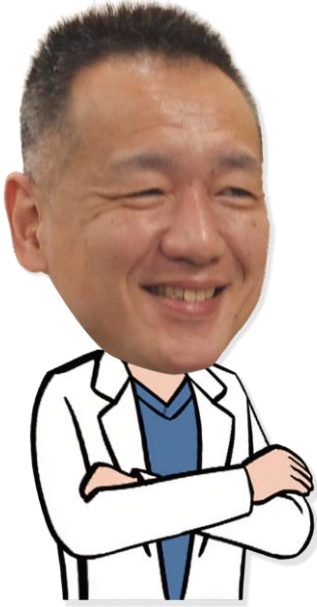


急性腹膜炎

がまんしたららいかん!!



急性腹膜炎は、腹膜に急激な炎症が生じる重篤な病気で、早急な診断と治療が必要です。

原因

- **消化管穿孔**：胃潰瘍や腸閉塞などにより、**消化液や内容物が腹腔内に漏れ出す**こと。
- **細菌感染**：**虫垂炎**や**胆のう炎**、**急性すい炎**などの感染が腹膜に波及すること。
- **外傷**：腹部への外的な損傷が原因となることもあります。

症状

- **腹痛**：特に激しい痛みが特徴（筋性防御「デファンス」、ブルンベルグ兆候）。
- **腹部膨満感**：排便、排ガスの停止→麻痺性イレウス。
- **発熱**：体温が上昇することがある。
- **ヒポクラテス顔貌**：吐き気や嘔吐が見られることもあります。
- **ショック症状**：状態が悪化すると、心拍数や呼吸数が増加することがあります。

診断と治療

急性腹膜炎の診断には、血液検査、超音波検査、CTスキャンなどが用いられます。特にCTスキャンは、腹部の詳細な画像を提供し、炎症の程度や原因を判断するのに有効です。

- **抗生物質の投与**：感染管理のために広範囲の抗生物質が使用されます。
- **緊急手術**：重症例では、穿孔箇所の修復や膿瘍の排膿が必要となる場合があります。

急性腹膜炎は放置すると致命的な合併症を引き起こす可能性があるため、早急な医療介入が重要です。症状が現れた場合は、すぐに医療機関を受診することが推奨されます。